

調査地名						
試掘者						
試掘孔番号		No.	標高		m	
試掘方法		試掘年月日				
標尺 (cm)	深度 (cm)	層厚 (cm)	柱状 図	土質 名	記事	地下水 位
50						
100						
150						
200						

記載要領

- 1 試掘孔番号は、「設置場所の付近の見取図」に記載した試掘孔の番号を記入すること。
- 2 標尺は、1目盛を10センチメートルとする。
- 3 柱状図及び土質名は、次の例により記入する。これ以外の土質については、別な模様を作ってもさしつかえ

	表土・黒土		中～細砂		礫まじり		火山灰質
	火山灰(ローム)		シルト		砂質		軽石質・スコリア質
	軽石		粘土		シルト質		土層の境
	スコリア		泥炭		粘土質		不明瞭な土層の境
	粗砂		礫・砂礫				

- 4 砂は粗砂(粒径2~1/2mm)と中～細砂(粒径1/2~1/16mm)と区分する。
- 5 土質の色調、硬軟、風化、キ裂の状態等は記事欄に記入する。
- 6 地下水位が大きく変動する場合は、地下水位の欄に次の列により記入する。

 ○月○日○時の水位

- 7 ひとつの試掘孔毎に作成すること。

8 様式の大きさは、B-5とする。

土質柱状図の表示方法

調査地名		長野県○○郡○○町大字○○字○○				
試掘者		○○○○ボーリング㈱ TEL ○○○○ (柱状図作成者) ○○○○				
試掘孔番号		ℕ ○	標高		○○○ m	
試掘方法		ボーリング		試掘年月日	○年○月○日	
標尺 (cm)	深度 (cm)	層厚 (cm)	柱状図	土質名	記事	地水 下位
	20	20		黒土	腐植物を混入する。	
	50	55		火山灰	灰褐色を呈し、軟質、上部に割れ目が発達する。	
	75					
	89	14		軽石	径5～10mmの黄灰色の軽石が粒状に密集している。	
	100	110		火山灰	暗灰色、やや硬質、径2～5mmのスコリアをわずかに点在する。	
	135	25		火山灰質シルト	灰～黄灰色、褐鉄鉱で汚染された部分はやや硬い	
	150	75		細～中砂	灰色の細粒砂と中粒砂の互層、ところどころにシルトの薄層(2～5cm)をはさむ。 水分多いが湧水なし	
	200	210				
	250	40		礫質粗砂	暗灰～灰色、礫種は径10～45mmの安山岩が多い。全体にルーズで崩壊しやすい。	▽220 ○月○日 ○時の 水位